

# FICoN第5回ウェブ検討会 (R4.11.21)

## ○「木質バイオマスエネルギー利用のあり方について考える」

### <講演>

「木質バイオマスエネルギー利用の現状と課題」 森林総合研究所 柳田高志氏

「農業と連携した木質バイオマスの熱電併給利用事例の概要」 エア・ウォーター東日本株式会社 高橋義和氏

「観光業と連携した木質バイオマスの熱利用事例の概要」 もりもりバイオマス株式会社 大城謙治氏

「エネルギー利用方法による木質バイオマスのGHG 排出削減効果の違い」 北海道林産試験場 古俣寛隆氏

「カーボンニュートラル性を確保した木質バイオマス利用のあり方」 公財)自然エネルギー財団 相川高信氏

### <総合討論>

(司会) 森林総合研究所 久保山裕史氏、(パネリスト) 上記講師の皆様

### 【ポイント】

- ・大規模な発電のみの事業から、小規模の熱電併給事業の拡大が施策的に推進されている。こうした中、ガス化熱電併給装置が海外から多数導入されている実態が紹介された。
- ・自社で生産したチップを用いて、ガス化熱電併給装置40台を安定稼働させ、得られた電気はFIT売電し、熱とCO<sub>2</sub>を野菜栽培に活用するトリジェネレーションの事例が紹介された。
- ・民間ベースのESCO事業として、ホテル3カ所においてチップボイラーを用いた給湯暖房用の熱供給を行い、黒字を確保している事例が紹介された。
- ・化石燃料と木質バイオマス、発電のみと熱電併給のGHG排出削減効果がLCAによって比較され、木質バイオマスを利用した熱電併給の効果が最も高いことが報告された。
- ・木材のエネルギー利用に関する炭素負債問題について、時間軸や利用段階等から包括的なレビューがなされ、一次バイオマスの利用についてあり方の検討の必要性が指摘された。